



佐敷グスク群
～尚巴志・思紹の出発地～

沖縄県南城市教育委員会 文化課

沖縄県南城市大里字仲間807
電話 098-946-8990

尚巴志・思紹の 琉球統一出発の地!!

尚巴志・思紹は琉球史では、沖縄島が三つの勢力（三山）に分裂していた時に活躍した人物で、15世紀初めにこれらの勢力を抑え、最初の琉球王朝（第1尚氏）を築いた英雄です。

文献には、佐敷按司＝尚巴志・思紹として記されているものの、居住していた場所が佐敷上グスクと書かれたものは、まだ見つかっていません。

しかしながら、尚巴志・思紹の樹立した第1尚氏王統の子孫の方々は、「つきしろの宮」を建立し、佐敷上グスクが第1尚氏発祥の地として讀えています。また、地域の人々もここに尚巴志・思紹がいた場所として語りついでいます。

近年の発掘調査では、佐敷上グスクが曲輪や石積み・切岸・土塁をもち、14世紀中ごろ以降に中国産陶磁器や土器が多く、武具類なども出土することがわかりました。

この年代は、思紹や尚巴志が佐敷按司として活躍していた時期と重なります。また、伝承でつたわる日本商人との交易や鉄製品のやりとりなど、関連する遺物も多く出土します。

尚巴志・思紹は佐敷按司として佐敷上グスクに居住し、地域の人々の支えを受けながら、対外的な交易等によって力を蓄え、三山を統一したのです。

佐敷グスク群内に残る文化財

親井

佐敷上グスク西側の道路側にあります。字佐敷では年頭にあたり、集落の安全と発展を祈願する場所の一つとして、旧暦のハチウビエ〔初拝〕に参拝します。

カマド跡

佐敷上グスク内にあります。伝承では、グスク時代のカマド跡といわれています。また、この付近は女官達の詰め所といわれています。

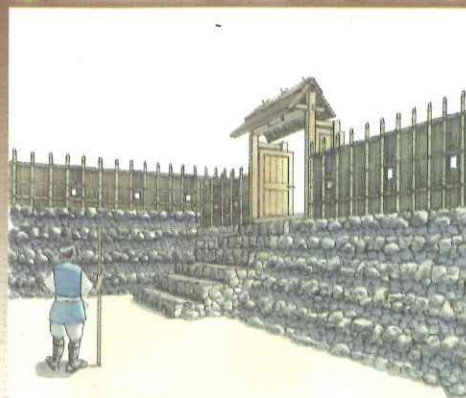
美里井

美里之子（ンザトシー）は思紹（＝苗代大比屋）の舅であり、美里殿があるところが、その居住跡といわれています。美里殿から西側にある井戸は美里井と呼ばれ、祝女たちのみそぎの場として伝えられています。

つきしろの岩・井

佐敷上グスク東側の苗代大比屋敷跡と同じ丘陵内にあります。ここは、赤子の頃の尚巴志が白鳥に抱いて温められ、犬に乳を与えられて育てられた場所といわれています。現在でも、聖なる場所として、参拝者が多い場所です。

発掘調査で見つかったもの



▲ 貼石状石列 イメージ



貼石状石列

佐敷上グスクの東側から西側にかけての斜面に構築された石列です。土留めの要素と、石垣に見える工夫がされています。佐敷上グスク独特の構造です。



石積み

佐敷上グスクの中にある石積みです。平場造成のためや、防御（南側）のために構築しています。野面積みと切り石積みが確認されています。



出土遺物

中国産青磁や大振りの碗、また熊本産の須恵質陶器（14世紀）や武具類などが出土しています。

佐敷グスク群

尚巴志・思紹が佐敷按司として居住した佐敷集落内に点在する遺跡群。上グスクや思紹と関わりのある苗代大比屋敷跡周辺や美里殿周辺を含めます。

この遺跡群は、他の石垣グスクと様相が異なり、急傾斜や空堀・土塁等を利用したグスクです。県外の中世山城に似ている部分があります。

佐敷上グスク西側には製鉄関連の遺跡（下代原遺跡）が確認されていて、尚巴志・思紹が活躍していた頃には、鉄製品を作っていたと考えられます。

